



観音寺・観音堂 賽銭箱の左側に白く見えるのが献句

『東葛歳時記』発刊

観音寺の観音堂に、筆書きの二十
一の献句が一年中展示されている。
せめて春夏秋冬、季節ごとにかえた
らいいのに、と思いつながら、散歩途
中に読み上げる。

永らへて観音堂に牡丹詠む

牡丹園巡りて風の甘きかな

牡丹にも美貌ありけり人の垣

すべて牡丹がらみ。日付が四月二

十九日、つまり牡丹の花盛りの吟行

の句なのだ。その牡丹献句が一年中

咲き続けているわけである。

草の実俳句会、二十八ヶ所を吟行、成果まとめる

草の実俳句会という、電話番号
もある。一昨年の十六年四月二十
九日の献句に、こういう二首。
いのち美し新緑に映ゆ歓喜仏
モンブラン・ケーキに似たり牡丹蕊
歓喜仏まで知っているのは地元
のグループかもしれない。電話を
かけることもなく過ぎた。
柏高島屋の本屋で、「東葛歳時
記」という本を買った。それが草
の実俳句会の力作だった。

地域のお話来歴を知り、ゆらりと俳句を鑑賞する楽しさ

超結社句会の草の実俳句会は、
昨年で満十五年になった。それを
記念して編集した『東葛歳時記』
だったのである。ここ数年のこの
地域内を精力的に吟行したものを
まとめたという。記載事項は、か
なり徹底していて、微に入り細を
うがう。

関宿から始まって、鎌ヶ谷まで、
二十八ヶ所の吟行地を紹介する。
例えば逆井地区では、「観音寺・
デイダラボッチ・かたくりの里」
ということになり、観音堂のス
ケッチもあり、三十一句が添えら
れている。

四月二十九日の、牡丹の真つ盛
りに和尚さんに観音堂を開いても
らい、吟行・句会をしているとい
う。そのときの句が一年中添付さ
れていることになる。

白牡丹ゆらりと風を躲しけり

東葛二十八ヶ所の故事来歴を教
えられ、ゆらりと句を楽しむこと
ができる。花マツプや七福神、野
菜などのミニ・ガイドもあり、安
産祈願の女人講「待道大権現」も
写真付きで掲載されている。

同会は毎月「会報・草の実」を
発行しており、柏アミューズで毎月
第三日曜日に句会を開いている。
問い合わせは藤本秀峰さん(04七
四九・七九二七)。

